

AIイノベーションレポート

全体動向・主要プレイヤー分析

人工知能×自然言語・テキスト解析

分析対象特許情報：米国（US）

2026年8月19日

イノベーションリサーチ株式会社

Contents

I 全体動向

1. 特許データに基づく 当分野の技術概要
2. 特許データに基づく 当分野の技術内容推移
3. 特許データに基づく 当分野の技術課題推移
4. 特許データに基づく 当分野の用途推移
5. 特許データに基づく 当分野の今後の展開予測

II 主要プレイヤー分析（各社ごと）

1. 特許データに基づく 当分野の主要プレイヤー
2. 特許データから見える プレイヤーの特徴技術概要 / 主要な技術課題（強み） / 主要な用途 / 活動期間 / パートナー / 重要特許 / 今後の展開予測 / プレスリリースなど
3. 主要プレイヤーの頻出用途キーワード集計

I 全体動向

I-1 特許データに基づく 当分野の技術概要

■ 自然言語・テキストの理解、分類・情報抽出

文章や発話内容を人工知能で解析し、意味や文脈、意図、属性などを認識する技術が含まれています。文章を単語やトークンに分割し、特徴量やベクトル表現へ変換したうえで、ニューラルネットワークや機械学習モデルを用いて、文書・文章の分類、意図推定、固有表現の抽出、重要語句の特定などを行います。企業名などの表記揺れを照合する技術、特定の条件や規則に関連する表現を文章中から検出する技術、文章が人間と機械のどちらによって生成されたかを判定する技術なども見られます。また、文書内の語句の関係をグラフとして表現し、重要な語句や内容を抽出するなど、文章の構造や意味的な関係を利用する技術も含まれています。

■ 文章生成・対話・質問応答

入力された文章、質問、会話履歴などを基に、新たな文章や応答を生成する技術が広く含まれています。会話の文脈や過去の発話パターンから次に入力される文章を予測して返信候補を提示する技術、質問の意図を認識して適切な回答や処理を選択する技術、複数の質問を文脈ごとに分割して回答を生成する技術などがあります。大規模言語モデルなどの機械学習モデルを利用し、入力された情報から名称、説明文、規制関連文書などを自動生成する技術も見られます。さらに、知識ベースやデータベースから必要な情報を検索・取得し、その情報を文脈に合わせて文章化する仕組みや、対話内容から利用者の要求を認識し、外部システムへの命令へ変換して処理を実行する技術も含まれています。

■ 音声・翻訳・マルチモーダル情報との連携

テキストだけでなく、音声や画像、ジェスチャーなどを自然言語処理と組み合わせる技術も含まれています。音声を認識して文字情報へ変換し、発話者や発話内容を識別したうえで、質問応答、対話制御、検索、各種機器の操作などにつなげる技術があります。また、ある言語の発話を認識して別の言語へ翻訳し、合成音声として出力する音声翻訳や、利用者の言語使用履歴から主要言語を推定して表示・操作言語を変更する技術も見られます。さらに、テキスト、音声、画像、ジェスチャーなど複数形式の入力を統合し、それぞれから得られる情報や文脈を組み合わせる利用者の要求を理解する技術も含まれています。このため、本リストは文章そのものの解析に加え、自然言語を人と人工知能、情報システム、各種機器とのインターフェースとして利用する技術まで広く包含しています。

【分析ロジック】

特許を取得しようとしている技術の核である「特許請求の範囲」を参照して、技術の概要を記述しています。そして、その内容を最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

I-2 特許データに基づく 当分野の技術内容推移

2006年～2010年は音声認識や検索、辞書・構文解析など、個別の言語処理技術を組み合わせる構成が中心です。2010年代前半には意味解析や質問応答が広がり、後半にはニューラルネットワーク、埋め込み、注意機構などによる学習型処理が増加しています。2021年以降はトランスフォーマーと大規模言語モデルを中心に、生成、強化学習、マルチモーダル処理へ展開しています。

2006年～2010年

①音声認識・対話による言語処理 ②検索・ランキングによる情報取得 ③辞書・構文解析による言語解析 ④翻訳・音声合成による言語変換 ⑤オントロジー・情報抽出による意味構造化 など

2011年～2015年

①音声認識・自然言語処理の統合 ②コーパス・辞書による構文解析 ③検索・ランキングによる情報検索 ④意味解析・オントロジーによる知識表現 ⑤質問応答・意図認識による対話制御 など

2016年～2020年

①ニューラルネットワーク・ベクトル表現による言語学習 ②分類・クラスタリングによるテキスト判定 ③埋め込み・類似度による意味表現 ④意図認識・対話による会話制御 ⑤注意機構・深層学習による系列処理 など

2021年～

①トランスフォーマー・注意機構による言語モデル ②大規模言語モデル・プロンプトによる生成処理 ③埋め込み・ベクトル表現による意味処理 ④強化学習・フィードバックによるモデル最適化 ⑤マルチモーダル・画像連携による複合入力処理 など

【分析ロジック】

特許を取得しようとしている技術の核である「特許請求の範囲」を参照して、母集団データから、4つの期間ごとの主要な技術を抽出しています。そして、その変遷についてコメントするようにし、最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Copyright 2026 Innovation Research Corporation

I-3 特許データに基づく 当分野の技術課題推移

2006年～2010年は、処理の誤りや速度、信頼性、手作業負担など、自然言語処理を実用化する際の基本的な課題が中心です。その後、大量データへの対応や曖昧性の低減などが重視され、2016年以降は学習データへの依存、認識精度、品質、処理コストなどの課題が増加しています。2021年以降は、効率に加えてセキュリティやプライバシー、解釈可能性、ハルシネーションなど生成AI特有の課題が多く確認されます。

2006年～2010年

①適応性向上 ②誤り低減 ③手作業負担低減
④信頼性向上 ⑤処理速度向上 など

2011年～2015年

①情報関連性向上 ②大量データ処理負担低減
③手作業負担低減 ④信頼性向上 ⑤曖昧性低減 など

2016年～2020年

①学習データ依存低減 ②認識精度向上 ③出力品質向上
④処理コスト低減 ⑤曖昧性低減 など

2021年～

①処理効率向上 ②セキュリティ向上 ③プライバシー保護向上
④解釈可能性向上 ⑤ハルシネーション低減 など

【分析ロジック】

日本のデータでは技術課題が多く記述されている「発明が解決しようとする課題」と、その記載がない場合は「要約」を参照して、海外データでは「要約」を参照して、母集団データから、4つの期間ごとの主要課題を抽出しています。そして、その変遷についてコメントするようにし、最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Copyright 2026 Innovation Research Corporation

I -4 特許データに基づく 当分野の用途推移

2006～2010年は音声認識、検索、翻訳、文字起こしなど、言語情報を認識・変換する用途が中心です。2010年代前半にはソーシャルメディア解析へ広がり、後半には医療情報解析や推薦など、特定領域での判断支援用途が増えています。2021年以降は、要約、コード生成、コンテンツ生成など、生成AIを直接利用する用途への展開が目立ちます。

2006年～2010年

①音声認識用途 ②情報検索用途 ③文書分類用途 ④機械翻訳用途 ⑤文字起こし用途 など

2011年～2015年

①音声認識用途 ②情報検索用途 ③文書分類用途 ④文字起こし用途 ⑤ソーシャルメディア解析用途 など

2016年～2020年

①情報検索用途 ②文書分類用途 ③音声認識用途 ④医療・患者情報解析用途 ⑤推薦用途 など

2021年～

①会議記録・要約用途 ②文書要約用途 ③ソフトウェアコード生成用途 ④コンテンツ生成用途 ⑤法務・契約文書解析用途 など

【分析ロジック】

日本のデータでは「発明の名称」、用途が多く記述されている、「産業上の可能性」と「技術分野」、その記載がない場合は「要約」を参照して、海外のデータでは「発明の名称」と「要約」を参照して、母集団データから、4つの期間ごとの主要用途を抽出しています。そして、その変遷についてコメントするようにし、最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Copyright 2026 Innovation Research Corporation

I-5 特許データに基づく 当分野の今後の展開予測

特許情報では、テキスト分類、情報抽出、検索、翻訳、意味解析から、埋め込みや言語モデルを用いた文脈理解・要約まで技術が広がっています。一方、ニュースリリースでは、自由記述の自動分類、経済文書のセンチメント分析、多言語文書の検索・要約など、非構造化テキストから必要な情報を高精度に抽出・構造化する研究が進んでいます。そのため、今後は言語モデルの生成能力だけでなく、分野固有の文書を正確に分類・検索し、文脈や根拠を保持したまま情報を抽出・要約する技術がさらに重要になると考えられます。

■ 関連ニュース

- ・ 2026年08月05日：低リソース言語の文書・音声を英語検索し、関連情報を抽出・要約する技術（米国国立標準技術研究所）
<https://www.nist.gov/programs-projects/iarpa-machine-translation-english-retrieval-information-any-language-material>
- ・ 2026年08月04日：自由記述の職業・産業情報を自動分類し標準コード化（米国疾病予防管理センター・国立労働安全衛生研究所）
<https://www.cdc.gov/niosh/enews/enewsv24n4.html>
- ・ 2026年05月27日：米国連邦準備制度理事会、経済文書の分類・センチメント分析への自然言語処理活用を紹介（米国連邦準備制度理事会）
<https://www.federalreserve.gov/newsevents/speech/cook20260527a.htm>
- ・ 2026年04月08日：海上事故の自由記述を自動処理・分類するテキスト解析研究（米国運輸統計局）
<https://www.bts.gov/newsroom/new-safemts-study-highlights-ai-innovations-boost-maritime-safety>
- ・ 2026年02月25日：歴史資料を扱う時代別言語モデルの研究プロジェクトを開始（イリノイ大学）
<https://ischool.illinois.edu/news-events/news/2026/02/new-multi-institutional-project-use-ai-represent-past-historical-periods>

【分析ロジック】

特許を取得しようとしている技術の核である「特許請求の範囲」と、当母集団に関連する主要ニュース（政府系発信、大学、新聞社や通信社など、ニュースソースとして信頼性のおけるもの）だけを基にして、今後の展開予測を述べています。最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Copyright 2026 Innovation Research Corporation

Ⅱ 主要プレイヤー分析

Ⅱ-1 特許データに基づく 当分野の主要プレイヤー

1. International Business Machines Corporation

- ウェブサイト：<https://www.ibm.com/>
- 本社所在地：米国ニューヨーク州アーモンク
- 主力事業：AI・ハイブリッドクラウド向けソフトウェア、ITコンサルティング、メインフレーム・サーバー等のITインフラ
- 売上高：675億米ドル（2025年度）

2. Microsoft Corporation

- ウェブサイト：<https://www.microsoft.com/>
- 本社所在地：米国ワシントン州レッドモンド
- 主力事業：クラウド（Azure）、業務ソフトウェア（Microsoft 365・Dynamics 365）、OS（Windows）、AI、ゲーム
- 売上高：3,318.39億米ドル（2026年度）

3. Alphabet Inc.

- ウェブサイト：<https://abc.xyz/>
- 本社所在地：米国カリフォルニア州マウンテンビュー
- 主力事業：インターネット検索・広告、YouTube、クラウド（Google Cloud）、サブスクリプション・デバイス、自動運転等
- 売上高：4,028.36億米ドル（2025年度）

4. Amazon.com, Inc.

- ウェブサイト：<https://www.amazon.com/>
- 本社所在地：米国ワシントン州シアトル
- 主力事業：電子商取引、クラウド（AWS）、デジタル広告、サブスクリプション、物流・デジタルコンテンツ
- 売上高：7,169億米ドル（2025年度）

5. Adobe Inc.

- ウェブサイト：<https://www.adobe.com/>
- 本社所在地：米国カリフォルニア州サンノゼ
- 主力事業：クリエイティブソフトウェア（Creative Cloud）、PDF・電子文書（Acrobat／Document Cloud）、デジタルマーケティング・顧客体験
- 売上高：237.7億米ドル（2025年度）

【分析ロジック】

指定したプレイヤーの正式社名、URL、本社所在地、主力事業、直近の売上高を整理しています。最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ①IBM

技術概要

①ニューラルネットワークの訓練・分類 ②意味・文脈のベクトル表現と類似度解析
③文書・コーパスを用いた質問応答・検索 ④エンティティ抽出・テキスト分類 ⑤音声・会話データの発話解析 など

主要な 技術課題 (強み※)

①機械学習モデルの例外判断対応・判断精度向上 ②LLM運用パラメータ最適化による応答性能向上 ③有害応答・バイアスの検出と低減 ④検索・生成結果の関連性向上 ⑤対話回答の正確性向上・誤回答低減 など

※特許出願の文書中に書かれている「課題」は、各社が各発明によって解決したと考えている課題であり、その集積は各社の技術的な「強み」であると考えられます。

主要な 用途

①質問応答・対話支援用途 ②文書・知識情報の検索用途 ③ソフトウェア開発・コード生成用途 ④文書・コンテンツの分析用途 ⑤ポリシー・コンプライアンス検証用途 など

【分析ロジック】

「技術概要」については、特許を取得しようとしている技術の核である「特許請求の範囲」を、「主要な技術課題」については、日本のデータでは「発明が解決しようとする課題」と、その記載がない場合は「要約」（海外データは「要約」のみ）を、「主要な用途」については、「発明の名称」、「産業上の可能性」と「技術分野」、その記載がない場合は「要約」（海外データでは「名称」「要約」のみ）をそれぞれ参照して、主要なものを抽出しています。最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ①IBM

活動期間（出願日ベース）

1986年03月～2025年09月

パートナー（共同出願人）

MASSACHUSETTS INSTITUTE OF TECHNOLOGY (10件), RENSSLAER POLYTECHNIC INSTITUTE (7件), GUSTO (5件), THE BOARD OF TRUSTEES OF THE UNIVERSITY OF ILLINOIS (5件), RELIANCE COMMUNICATIONS (3件), WEST INTERACTIVE SERVICES (3件), WEST SAFETY SERVICES (3件), WEST UNIFIED COMMUNICATIONS SERVICES (3件), ACN 117411953 (2件), COGNEA GROUP PTY (2件), IBM (2件), RELEVANCENOW PTY (2件), THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF MICHIGAN (2件), UNIVERSITY COLLEGE DUBLIN (2件), UNIVERSITY OF YORK (2件), AFRL (1件), ALPHABET (1件), AS COLLATERAL AGENT (1件), BANTER (1件), COMPUTER TASK GROUP (1件), DARPA (1件), DEAKIN UNIVERSITY (1件), ETH ZURICH (EIDGENOESSISCHE TECHNISCHE HOCHSCHULE ZURICH) (1件), GALP EXPLORA--O E PROD--O PETROL-FERA (1件), IDEA STATICA SRO (1件), INDIAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY BOMBAY (1件), INTUIT (1件), MITSUBISHI ELECTRIC GROUP (1件), O OFFICE OF TECHNOLOGY TRANSFER (1件), PETROGAL BRASIL (1件), RCE TECHNOLOGIES (1件), REGENTS OF THE UNIVERSITY OF MICHIGAN C (1件), RIJ (1件), SA (1件), SA (GALP) (1件), TCG SENIOR FUNDING LLC (1件), THE OHIO STATE UNIVERSITY (1件), TOYOTA TECHNOLOGICAL INSTITUTE AT CHICAGO (1件), UNIVERSITY OF BRESCIA ITALY (1件), UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN (1件), UNIVERSITY OF MICHIGAN (1件), UNIVERSITY OF SOUTH CAROLINA (1件)

重要出願

1. US201314037968A 【発明の名称】 Customer feedback analyzer 【要約】 A method and system for analyzing customer feedback is provided. The method includes accessing a key...
2. US201213710509A 【発明の名称】 Method of answering questions and scoring answers using structured knowledge mined from a corpus of data 【要約】 In a method of answering questions and scoring answers, a title and at least one topical field are i...
3. US201314049445A 【発明の名称】 Empathy injection for question-answering systems 【要約】 Exemplary methods and devices herein receive an inquiry and automatically analyze words used in the ...
4. US201213710708A 【発明の名称】 Method of answering questions and scoring answers using structured knowledge mined from a corpus of data 【要約】 In a method of answering questions and scoring answers, a title and at least one topical field are i...
5. US201514956822A 【発明の名称】 Detecting business anomalies utilizing information velocity and other parameters using statistical analysis 【要約】 A method, system and computer program product for detecting business anomalies. Enterprise data as w...

【分析ロジック】

重要出願は、以下の抽出条件で抽出しています。抽出条件：① 技術概念の中心性が高いこと（他の多数の出願と概念的に近い＝後続技術が集まりやすい）もの → 技術群の「核」になっている可能性が高い ② 比較的早期の出願であること（同一技術群の中で出願日が高い → 後続出願の基礎になっている可能性が高い）この2点を組み合わせたスコアにより、点数の高い上位5件を抽出する。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Copyright 2026 Innovation Research Corporation

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ①IBM

特許情報では、自然言語の分類、意味・文脈の表現、類似度判定、エンティティやトピックの抽出、質問応答、情報検索、対話・音声処理、機械学習モデルの訓練や評価など、言語情報を解析して判断や応答につなげる技術が幅広く蓄積されているとみられます。一方、プレスリリースでは、自然言語処理そのものの高度化に加え、複雑な企業データへの自然言語アクセス、司法文書の意味解析・構造化、非構造化文書の抽出・標準化といった実業務への展開が目立っています。特に、単独の文章を解析するだけでなく、大量の文書や企業内データを整理し、利用者の質問に応じて必要な情報を取り出す方向が強まっていると考えられます。そのため、今後は、IBMが蓄積してきた分類・意味解析・検索・質問応答などの技術を、大規模言語モデルや文書処理基盤と組み合わせ、業務固有の大量文書を構造化し、根拠を確認できる回答や判断支援につなげる展開が進む可能性があります。

■プレスリリースなど

- ・ 2026年06月16日：自然言語でIT投資を分析する「Conversational Insights」など新たなAI機能を発表（Apptio／IBM）

<https://newsroom.ibm.com/2026-06-16-apptio-unveils-conversational-insights-and-new-suite-of-ai-powered-capabilities-to-translate-complex-technology-spend-into-measurable-business-outcomes>

- ・ 2026年04月24日：AIによる司法文書の構造化ツール開発プロジェクトを開始（バーデン＝ヴュルテンベルク州司法・移民省／IBMほか）

<https://de.newsroom.ibm.com/2026-04-24-Ministerium-der-Justiz-und-fur-Migration-Baden-Wuerttemberg-startet-Entwicklungsprojekt-fur-ein-KI-Werkzeug-zur-Aktenstrukturierung>

- ・ 2026年03月16日：企業向けAIでNVIDIAとの協業を拡大、非構造化文書の抽出を強化（IBM／NVIDIA）

<https://newsroom.ibm.com/2026-03-16-ibm-and-nvidia-announce-expanded-collaboration-at-gtc-2026-to-advance-ai-for-the-enterprise>

【分析ロジック】

特許を取得しようとしている技術の核である「特許請求の範囲」と、近年のプレスリリースを情報源として今後の展開予測を立てており、その内容を、最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ②MICROSOFT

技術概要

①言語モデルによる自然言語応答生成 ②クエリ・文書検索と検索結果処理 ③音声認識・発話テキスト処理 ④意味表現・埋め込み・エンティティ解析 ⑤テキスト分類・意図・トピック解析 など

主要な 技術課題 (強み※)

①ハルシネーション低減・回答信頼性向上 ②テキスト評価精度・品質向上 ③処理性能向上・消費資源低減 ④プライバシー保護・情報漏洩リスク低減 ⑤文脈不足低減・応答適合性向上 など

※特許出願の文書中に書かれている「課題」は、各社が各発明によって解決したと考えている課題であり、その集積は各社の技術的な「強み」であると考えられます。

主要な 用途

①電子メール・メッセージの管理・作成用途 ②音声・会議内容の文字起こし・要約用途 ③文書・情報の検索・検索支援用途 ④ソフトウェア・プログラムの開発支援用途 ⑤言語識別・翻訳・テキスト認識用途 など

【分析ロジック】

「技術概要」については、特許を取得しようとしている技術の核である「特許請求の範囲」を、「主要な技術課題」については、日本のデータでは「発明が解決しようとする課題」と、その記載がない場合は「要約」（海外データは「要約」のみ）を、「主要な用途」については、「発明の名称」、「産業上の可能性」と「技術分野」、その記載がない場合は「要約」（海外データでは「名称」「要約」のみ）をそれぞれ参照して、主要なものを抽出しています。最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ②MICROSOFT

活動期間（出願日ベース）

1996年04月～2026年03月

パートナー（共同出願人）

AT (17件), T PROPERTIES (9件), NUANCE COMMUNICATIONS (5件), A DELAWARE (3件), A DIAMOND EQUIPMENT (3件), A MAINEORATON (3件), ART ADVANCED RECOGNITION TECHNOLOGIES (3件), AS GRANTOR (3件), DICTAPHONE (3件), DSP (3件), HUMAN CAPITAL RESOURCES (3件), INSTITIT KATALIZA IMENI GK BORESKOVA SIBIRSKOGO OTDELENIA ROSSIISKOI AKADEMII NAUK (3件), MITSUBISHI DENKI (3件), NOKIA (3件), NORTHROP GRUMMAN (3件), NUANCE COMMUNICATIONS AUSTRIA (3件), SCANSOFT (3件), SPEECHWORKS INTERNATIONAL (3件), STRYKER LEIBINGER (3件), TELELOGUE (3件), USB AG STAMFORD BRANCH (3件), T KNOWLEDGE VENTURES (2件), 2011 INTELLECTUAL PROPERTY ASSET TRUST (1件), CONVERSANT WIRELESS LICENSING SA RL (1件), DICATAPHONE (1件), IMMUNOGEN (1件), MEDIATEK (1件), PACKSIZE (1件), ROYAL PHILIPS (1件), SAP (1件), SOLSTICE CAPITAL II (1件), TEXAS INSTRUMENTS (1件)

重要出願

1. US200410968426A 【発明の名称】 Text masking provider 【要約】 A system that facilitates masked data entry in an edit control is provided. More particularly, the i...
2. US200511261220A 【発明の名称】 Shopping assistant 【要約】 A multi-modal device that can substantially facilitate intelligent shopping. Electronic receipts can...
3. US200711768665A 【発明の名称】 LIVE COPY-PASTE 【要約】 Copying and pasting information from one application to another allows identical information to be p...
4. US200511300916A 【発明の名称】 Collaborative meeting assistant 【要約】 A data collaboration system that aggregates data from a number of multi-modal mobile devices in conn...
5. US200711770645A 【発明の名称】 SEMANTICALLY RICH WAY OF NAVIGATING ON A USER DEVICE 【要約】 Information can be presented to a user as high-level content that is dynamically presented to a user...

【分析ロジック】

重要出願は、以下の抽出条件で抽出しています。抽出条件：① 技術概念の中心性が高いこと（他の多数の出願と概念的に近い＝後続技術が集まりやすい）もの → 技術群の「核」になっている可能性が高い ② 比較的早期の出願であること（同一技術群の中で出願日が早い → 後続出願の基礎になっている可能性が高い）この2点を組み合わせたスコアにより、点数の高い上位5件を抽出する。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Copyright 2026 Innovation Research Corporation

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ②MICROSOFT

特許情報では、自然言語、言語モデル、プロンプト、クエリ、検索、文書、意味解析、埋め込み、エンティティ、音声、文字起こし、分類、意図推定、要約などに関する内容が広く確認でき、自然言語やテキストを理解する処理から、必要な情報を検索・抽出し、文脈に応じた応答を生成する処理まで幅広く権利化が進められているとみられます。一方、プレスリリースでは、自然言語による企業データへの問い合わせ、ログや各種運用情報の解析、AIエージェントによる判断・対応支援に加え、言語モデルの推論処理を支える専用計算基盤まで展開が広がっています。そのため、今後は単独の文章解析や生成機能だけでなく、検索・企業データ・業務システム・監視情報を言語モデルが横断的に扱い、自然言語から情報取得、判断支援、処理実行までを連続的に行う方向へ発展する可能性があります。また、利用範囲の拡大に伴い、文脈の正確な把握、回答の信頼性、処理効率を高める技術の重要性も増すと考えられます。

■プレスリリースなど

- ・ 2026年06月23日：エージェント型オブザーバビリティによるクラウド運用の再構築（Microsoft）
<https://blogs.microsoft.com/blog/2026/06/23/rethinking-cloud-operations-with-agentic-observability/>
- ・ 2026年06月03日：Microsoft Build 2026：Microsoft FabricとMicrosoft Databasesによるエージェント型アプリ構築（Microsoft）
<https://azure.microsoft.com/en-us/blog/microsoft-build-2026-building-agentic-apps-with-microsoft-fabric-and-microsoft-databases/>
- ・ 2026年01月26日：Maia 200：推論向けに構築されたAIアクセラレータ（Microsoft）
<https://blogs.microsoft.com/blog/2026/01/26/maia-200-the-ai-accelerator-built-for-inference/>

【分析ロジック】

特許を取得しようとしている技術の核である「特許請求の範囲」と、近年のプレスリリースを情報源として今後の展開予測を立てており、その内容を、最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ③ALPHABET

技術概要

①音声認識・転写処理 ②自然言語モデル・生成処理 ③テキスト埋め込み・表現学習
④自動アシスタント・対話制御 ⑤文書・コンテンツ検索処理 など

主要な 技術課題 (強み※)

①誤出力・ハルシネーション低減 ②意図理解・認識精度向上 ③生成・検索結果の品質・関連性向上 ④処理効率向上・計算資源負荷低減 ⑤プライバシー・情報安全性向上 など

※特許出願の文書中に書かれている「課題」は、各社が各発明によって解決したと考えている課題であり、その集積は各社の技術的な「強み」であると考えられます。

主要な 用途

①音声認識・文字起こし用途 ②対話型アシスタント・音声ボット用途 ③検索・コンテンツ推薦用途 ④画像内テキスト解析・変換用途 ⑤テキスト指示による画像生成用途 など

【分析ロジック】

「技術概要」については、特許を取得しようとしている技術の核である「特許請求の範囲」を、「主要な技術課題」については、日本のデータでは「発明が解決しようとする課題」と、その記載がない場合は「要約」（海外データは「要約」のみ）を、「主要な用途」については、「発明の名称」、「産業上の可能性」と「技術分野」、その記載がない場合は「要約」（海外データでは「名称」「要約」のみ）をそれぞれ参照して、主要なものを抽出しています。最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ③ALPHABET

活動期間（出願日ベース）	重要出願
1996年08月～2026年03月	1. US201514941454A 【発明の名称】 Generating natural language descriptions of images 【要約】 Methods, systems, and apparatus, including computer programs encoded on computer storage media, for … 2. US201514731326A 【発明の名称】 Generating representations of input sequences using neural networks 【要約】 Methods, systems, and apparatus, including computer programs encoded on computer storage media, for … 3. US201916529252A 【発明の名称】 Minimum word error rate training for attention-based sequence-to-sequence models 【要約】 Methods, systems, and apparatus, including computer programs encoded on computer-readable storage me… 4. US202117443557A 【発明の名称】 Minimum word error rate training for attention-based sequence-to-sequence models 【要約】 Methods, systems, and apparatus, including computer programs encoded on computer-readable storage me… 5. US202016869552A 【発明の名称】 Speech recognition using unspoken text and speech synthesis 【要約】 A method for training a generative adversarial network (GAN)-based text-to-speech (TTS) model and a …
パートナー（共同出願人） GOOGLE TECHNOLOGY HOLDINGS (6件), GDM HOLDING (4件), AS AGENT (1件), AS NOTES COLLATERAL AGENT (1件), BANK OF AMERICA (1件), BBN TECHNOLOGIES(AS SUCCESSOR BY MERGER TO BBNT SOLUTIONS) (1件), BOLT BERANEK (1件), DADE BEHRING MARBURG (1件), DAVID (1件), FLEET NATIONAL BANK (1件), GOOGLE (1件), INTERNATIONAL BUSINESS MACHINES (1件), LLC (1件), NATIONAL ASSOCIATION (1件), NEWMAN (1件), OOO SPEAKTOIT (1件), RAYTHEON BBN TECHNOLOGIES (1件), SAMSUNG ELECTRONICS (1件), SUN (1件), WILMINGTON TRUST (1件)	

【分析ロジック】

重要出願は、以下の抽出条件で抽出しています。抽出条件：① 技術概念の中心性が高いこと（他の多数の出願と概念的に近い＝後続技術が集まりやすい）もの → 技術群の「核」になっている可能性が高い ② 比較的早期の出願であること（同一技術群の中で出願日が早い → 後続出願の基礎になっている可能性が高い）この2点を組み合わせたスコアにより、点数の高い上位5件を抽出する。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Copyright 2026 Innovation Research Corporation

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ③ALPHABET

特許情報では、自然言語処理を中核として、音声認識や文字起こし、言語モデルによる文章処理、埋め込み表現、検索・クエリ処理、自動アシスタントとの対話、翻訳などに関する請求項が幅広く確認できます。また、入力されたテキストや音声から意味を捉え、モデルによる推論や生成を経て、検索結果や応答、翻訳結果などを出力する一連の処理に関する権利化も多く見られます。一方、プレスリリースでは、Geminiの高速化・低遅延化や文書解析能力の向上、DiffusionGemmaによる並列的なテキスト生成、さらに手話からテキストへの変換と検索・対話サービスへの接続などが示されています。そのため、今後は自然言語・テキスト解析を単独の文章処理として扱うだけでなく、音声や映像、手話など異なる入力を言語情報へ変換し、検索、生成、対話、エージェント処理へ連続的につなぐ方向が強まると考えられます。また、処理速度や計算量を抑えながらリアルタイム性を高め、端末上を含むより幅広い環境で言語AIを利用する技術開発が進む可能性があります。

■プレスリリースなど

- ・ 2026年08月12日：手話AIをユーザーの手に（Google DeepMind）

<https://deepmind.google/blog/putting-sign-language-ai-into-users-hands/>

- ・ 2026年07月21日：Gemini 3.6 Flash、3.5 Flash-Lite、3.5 Flash Cyberを発表（Google）

<https://blog.google/innovation-and-ai/models-and-research/gemini-models/gemini-3-6-flash-3-5-flash-lite-3-5-flash-cyber/>

- ・ 2026年06月10日：DiffusionGemma、最大4倍高速なテキスト生成（Google）

<https://blog.google/innovation-and-ai/technology/developers-tools/diffusion-gemma-faster-text-generation/>

【分析ロジック】

特許を取得しようとしている技術の核である「特許請求の範囲」と、近年のプレスリリースを情報源として今後の展開予測を立てており、その内容を、最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ④AMAZON

技術概要

①音声認識・発話処理 ②自然言語理解・意図／エンティティ解析 ③機械学習モデル・特徴表現学習 ④意味検索・クエリランキング ⑤言語モデル・応答／コンテンツ生成 など

主要な 技術課題 (強み※)

①認識精度向上・誤認識低減 ②曖昧性解消・意図判定精度向上 ③応答遅延短縮・計算資源削減 ④学習効率・モデル品質向上 ⑤応答品質・ユーザー適合性向上 など

※特許出願の文書中に書かれている「課題」は、各社が各発明によって解決したと考えている課題であり、その集積は各社の技術的な「強み」であると考えられます。

主要な 用途

①音声対話・音声アシスタント用途 ②自然言語による情報検索・検索支援用途 ③文章・応答コンテンツ生成用途 ④意図・エンティティの分類／判定用途 ⑤推薦・パーソナライズ用途 など

【分析ロジック】

「技術概要」については、特許を取得しようとしている技術の核である「特許請求の範囲」を、「主要な技術課題」については、日本のデータでは「発明が解決しようとする課題」と、その記載がない場合は「要約」（海外データは「要約」のみ）を、「主要な用途」については、「発明の名称」、「産業上の可能性」と「技術分野」、その記載がない場合は「要約」（海外データでは「名称」「要約」のみ）をそれぞれ参照して、主要なものを抽出しています。最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ④AMAZON

活動期間（出願日ベース）	重要出願
2008年01月～2026年02月	1. US202017024959A 【発明の名称】 User-system dialog expansion 【要約】 Techniques for recommending a skill experience to a user after a user-system dialog session has ended... 2. US202217853013A 【発明の名称】 Natural language understanding 【要約】 A system is provided for reducing friction during user interactions with a natural language processing... 3. US201916277328A 【発明の名称】 Sentiment detection in audio data 【要約】 Described herein is a system for sentiment detection in audio data. The system processes audio frames... 4. US202016786629A 【発明の名称】 Content output management based on speech quality 【要約】 Techniques for ensuring content output to a user conforms to a quality of the user's speech, even when... 5. US201715710229A 【発明の名称】 Machine learning models for data driven dialog management 【要約】 Techniques for optimizing a system to improve an overall user satisfaction in a speech controlled system...
パートナー（共同出願人）	
A9COM（1件）, EVI TECHNOLOGIES（1件）, LEASING V（1件）, LEASING VI（1件）, NATIONAL SCIENCE FOUNDATION（1件）, VENTURE LENDING（1件）, YAP（1件）	

【分析ロジック】

重要出願は、以下の抽出条件で抽出しています。抽出条件：① 技術概念の中心性が高いこと（他の多数の出願と概念的に近い＝後続技術が集まりやすい）もの → 技術群の「核」になっている可能性が高い ② 比較的早期の出願であること（同一技術群の中で出願日が早い → 後続出願の基礎になっている可能性が高い）この2点を組み合わせたスコアにより、点数の高い上位5件を抽出する。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ④AMAZON

特許情報では、自然言語やテキストを対象に、機械学習モデル、言語モデル、音声認識、意図・エンティティの判定、埋め込み表現、意味解析、検索・ランキング、ユーザープロファイル、応答生成などを組み合わせる構成が広く確認できます。一方、プレスリリースでは、自然言語による商品探索・推薦、企業データへの自然言語問い合わせ、利用者が文章で示した条件を解釈して対象を検索・推薦するサービスへの展開が示されています。そのため、今後は自然言語解析を単独の分類・抽出処理として利用するだけでなく、利用者の発話や文章から意図・条件・文脈を把握し、社内外のデータや商品情報などを検索したうえで、個々の利用者に適した応答や候補を提示する方向が強まると考えられます。また、特許情報にみられる音声認識、意味表現、ランキング、ユーザー情報の処理が組み合わせられることで、入力から検索・判断・推薦・応答までを連続して処理するAIシステムへ発展する可能性があります。

■プレスリリースなど

- ・ 2026年07月28日：AIを活用したショッピングでセール商品の発見を支援（アマゾン）

<https://press.aboutamazon.com/in/2026/7/discover-top-deals-with-ai-powered-shopping-this-great-freedom-sale-on-amazon-in-starting-7th-august-2026>

- ・ 2026年05月27日：Snowflakeとの連携を拡大し企業向けエージェントAIの導入を加速（アマゾン・ウェブ・サービス／Snowflake）

<https://press.aboutamazon.com/2026/5/snowflake-expands-aws-collaboration-with-6b-commitment-to-accelerate-enterprise-agentic-ai-adoption>

- ・ 2026年04月09日：AIを活用して犬・猫と里親候補をマッチングするツールを提供（アマゾン）

<https://press.aboutamazon.com/2026/4/amazons-ai-powered-tool-matches-dogs-and-cats-with-potential-adopters>

【分析ロジック】

特許を取得しようとしている技術の核である「特許請求の範囲」と、近年のプレスリリースを情報源として今後の展開予測を立てており、その内容を、最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ⑤ADOBE

技術概要

①言語埋め込み・意味類似度解析 ②言語モデル・プロンプト処理 ③文書・検索クエリ処理 ④テキスト分類・意図判定 ⑤テキスト・画像の統合処理 など

主要な技術課題 (強み※)

①出力精度・ロバスト性向上 ②生成内容の誤り・ハルシネーション抑制 ③要約品質・生成コストの最適化 ④検索・問い合わせ処理の効率向上 ⑤応答エラーの検出・重大エラー低減 など

※特許出願の文書中に書かれている「課題」は、各社が各発明によって解決したと考えている課題であり、その集積は各社の技術的な「強み」であると考えられます。

主要な用途

①画像の生成・編集用途 ②文書の生成・要約・情報抽出用途 ③検索・問い合わせ応答用途 ④動画の編集・内容解析用途 ⑤フォントの認識・推薦用途 など

【分析ロジック】

「技術概要」については、特許を取得しようとしている技術の核である「特許請求の範囲」を、「主要な技術課題」については、日本のデータでは「発明が解決しようとする課題」と、その記載がない場合は「要約」（海外データは「要約」のみ）を、「主要な用途」については、「発明の名称」、「産業上の可能性」と「技術分野」、その記載がない場合は「要約」（海外データでは「名称」「要約」のみ）をそれぞれ参照して、主要なものを抽出しています。最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ⑤ADOBE

活動期間（出願日ベース）	重要出願
2012年03月～2026年01月	1. US201615065501A 【発明の名称】 Automatically classifying and presenting digital fonts 【要約】 Systems and methods are disclosed for classifying digital fonts. In particular, in one or more embod… 2. US201916426298A 【発明の名称】 Visually guided machine-learning language model 【要約】 Visually guided machine-learning language model and embedding techniques are described that overcome… 3. US201514978421A 【発明の名称】 Structured knowledge modeling, extraction and localization from images 【要約】 Techniques and systems are described to model and extract knowledge from images. A digital medium en… 4. US202017079844A 【発明の名称】 Text editing of digital images 【要約】 Digital image text editing techniques as implemented by an image processing system are described tha… 5. US201916518880A 【発明の名称】 Utilizing object attribute detection models to automatically select instances of detected objects in images 【要約】 The present disclosure relates to an object selection system that accurately detects and automatical…
パートナー（共同出願人）	
UNIVERSITY OF HOUSTON SYSTEM（2件）, PAYSTAND（1件）, THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA（1件）, TOKYO ELECTRON（1件）, UNIVERSITY OF MARYLAND（1件）	

【分析ロジック】

重要出願は、以下の抽出条件で抽出しています。抽出条件：① 技術概念の中心性が高いこと（他の多数の出願と概念的に近い＝後続技術が集まりやすい）もの → 技術群の「核」になっている可能性が高い ② 比較的早期の出願であること（同一技術群の中で出願日が早い → 後続出願の基礎になっている可能性が高い）この2点を組み合わせたスコアにより、点数の高い上位5件を抽出する。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

Ⅱ-2 特許データから見えるプレイヤーの特徴 ⑤ADOBE

特許情報では、自然言語やテキストを単に生成するだけでなく、埋め込み表現による意味解析、文書理解、要約、分類、意図検出、検索クエリ処理、ハルシネーション抑制などに加え、自然言語を使った画像編集、画像生成、動画内オブジェクト選択、フォント推薦など、テキストと各種コンテンツを結び付ける技術が多数確認できます。また、プロンプトの改善、検索文脈の把握、応答生成、文書構造の理解など、人間の指示をより正確に解釈するための技術も含まれています。一方、プレスリリースでは、こうした自然言語処理を個別機能として提供するだけでなく、利用者が文章で目的を伝え、AIエージェントが複数のアプリや処理を横断して作業を進める方向が示されています。そのため、今後は自然言語・テキスト解析が検索や要約などの単独機能から、利用者の意図や文脈を把握し、文書・画像・動画などを横断して一連の制作・編集処理を制御する基盤へ広がる可能性があります。特許で蓄積されている意味解析、意図検出、文書理解、プロンプト処理などが、各種エージェントの判断や操作精度を支える技術として組み込まれていくと考えられます。

■プレスリリースなど

・ 2026年06月18日：クリエイティブエージェントをCreative Cloud各アプリへ大規模展開（アドビ）

<https://news.adobe.com/news/2026/06/adobe-unveils-major-expansion>

・ 2026年05月06日：新たな生産性エージェントでPDFの理解・作成・共有を高度化（アドビ）

<https://news.adobe.com/news/2026/05/adobes-new-productivity-agent>

・ 2026年04月15日：新たなクリエイティブエージェントと生成AI機能をAdobe Fireflyに導入（アドビ）

<https://news.adobe.com/news/2026/04/adobe-new-creative-agent>

【分析ロジック】

特許を取得しようとしている技術の核である「特許請求の範囲」と、近年のプレスリリースを情報源として今後の展開予測を立てており、その内容を、最終的に特許分析の専門家による確認・修正を行い、ハルシネーションを最小化しています。

Ⅱ-3 主要プレイヤーの頻出用途キーワード集計

5社とも「検索」が最上位にあり、「翻訳」、コーディングを含む「ソフトウェア開発」も複数社で上位にみられます。IBMはソーシャルメディア、医療記録、規制対応、採用など幅広い用途がみられます。Microsoftはソフトウェア開発が多く、ゲームや顧客対応、バーチャルアシスタントも目立ちます。Alphabetは翻訳の比重が高く、会計、電子メール・メッセージング、会議支援も上位です。Amazonは会計、顧客対応、バーチャルアシスタントが比較的多く、サービス運営に関わる用途が中心です。Adobeは検索と翻訳が大半を占めています。

■ IBM

No.	キーワード	件数
1	search (検索)	169
2	translation (翻訳)	43
3	social media (ソーシャルメディア)	34
4	software development (ソフトウェア開発)	32
5	email & messaging (電子メール・メッセージング)	24
6	accounting (会計)	14
7	virtual assistants (バーチャルアシスタント)	14
8	medical records (医療記録・カルテ)	11
9	news media (ニュースメディア)	8
10	customer service (顧客対応)	7
11	marketing (マーケティング)	6
12	meeting intelligence (会議支援)	6
13	cybersecurity (サイバーセキュリティ)	5
14	travel (旅行)	5
15	automotive (自動車)	4
16	robotic process automation (ロボティック・プロセス・オートメーション)	4
17	sensory accessibility (聴覚・視覚支援)	3
18	education (教育)	3
19	regulatory compliance (規制対応)	3
20	recruitment (採用)	3

■ MICROSOFT

No.	キーワード	件数
1	search (検索)	189
2	software development (ソフトウェア開発)	57
3	translation (翻訳)	56
4	gaming (ゲーム)	14
5	accounting (会計)	13
6	virtual assistants (バーチャルアシスタント)	11
7	customer service (顧客対応)	10
8	email & messaging (電子メール・メッセージング)	9
9	news media (ニュースメディア)	9
10	social media (ソーシャルメディア)	7
11	medical records (医療記録・カルテ)	5
12	marketing (マーケティング)	3
13	travel (旅行)	3
14	meeting intelligence (会議支援)	3
15	cybersecurity (サイバーセキュリティ)	2
16	sensory accessibility (聴覚・視覚支援)	2
17	content safety (投稿監視・不適切コンテンツ対策)	2
18	automotive (自動車)	1
19	advertising (広告)	1
20	clinical trials & recruitment (臨床試験・採用募集)	1

■ ALPHABET

No.	キーワード	件数
1	search (検索)	89
2	translation (翻訳)	54
3	software development (ソフトウェア開発)	20
4	accounting (会計)	17
5	email & messaging (電子メール・メッセージング)	17
6	meeting intelligence (会議支援)	10
7	gaming (ゲーム)	7
8	social media (ソーシャルメディア)	5
9	virtual assistants (バーチャルアシスタント)	4
10	cybersecurity (サイバーセキュリティ)	2
11	news media (ニュースメディア)	2
12	travel (旅行)	2
13	advertising (広告)	2
14	sensory accessibility (聴覚・視覚支援)	1
15	automotive (自動車)	1

■ AMAZON

No.	キーワード	件数
1	search (検索)	49
2	translation (翻訳)	22
3	accounting (会計)	14
4	customer service (顧客対応)	4
5	virtual assistants (バーチャルアシスタント)	4
6	sensory accessibility (聴覚・視覚支援)	3
7	content safety (投稿監視・不適切コンテンツ対策)	2
8	software development (ソフトウェア開発)	1
9	social media (ソーシャルメディア)	1
10	gaming (ゲーム)	1
11	news media (ニュースメディア)	1
12	meeting intelligence (会議支援)	1
13	e-commerce (電子商取引)	1

■ ADOBE

No.	キーワード	件数
1	search (検索)	46
2	translation (翻訳)	12
3	social media (ソーシャルメディア)	2
4	email & messaging (電子メール・メッセージング)	1
5	marketing (マーケティング)	1
6	sensory accessibility (聴覚・視覚支援)	1

【分析ロジック】

分析母集団全体での頻出課題キーワード約30個を、「発明の名称」、「要約」の中から抽出し、その類義語を考慮して、各出願にタグ付けし、データを基に、主要プレイヤーごとの頻出課題キーワードを集計しています。

分析にAIを使っているため、重要な情報は一次情報（出願内容など）でご確認ください。

■お問合せ先■
イノベーションリサーチ株式会社

住所：〒115-0045
東京都北区赤羽1-59-8 ヒノデビル4階S-4
E-mail：webinquiry@innovation-r.com
URL：<https://www.innovation-r.com/>

本レポートの著作権は、イノベーションリサーチ株式会社に帰属します。